

キラリと輝くむらびと

佐井村は「小さくてもキラリと光る村」と紹介されることがあります。この特集では、誇りをもって活動している方、夢実現のための挑戦や、むらづくりに奮闘する方など、佐井村の“ヒト”という魅力にスポットライトをあてて紹介していきます。



いしづか いくこ 石塚 育子

プロフィール

1969年生まれ、古佐井地区出身、田名部高等学校、青森県歯科衛生士専門学校（現 青森歯科医療専門学校）卒業。平成2年から佐井歯科診療所に勤務し、ただ今認定歯科衛生士を目指して勉強中。

「早速ですが、石塚さんが聖火ランナーに応募したきっかけは何ですか？」
 たまたま旦那が携帯を見ていて、「あれ？ 聖火ランナー募集してる。しかもむつ市に来るのは6月12日だ。」と言ったんです。6月12日は息子の命日で、その日に聖火が下北にやってくるなんてすごいよね、もしもその日に聖火ランナーとして走れたらすごいよねって。これはきつと何かの縁だからと、最初は旦那が応募するって言いだしたんですけど、だったら私も応募してみようというのがきっかけです。
 結構気軽に応募してみたら、なんと選出されてしまったと？
 2019年の12月25日、クリスマスの日だったんですけど、突然組織委員会からメールが届いたんです。最初は意味がわからなくて、いたずらメールか何かかと思っただんですけど、聖火ランナーとして走れるとわかったときにはもうびっくりして。もちろん仏壇に行っって息子にも伝えたんですけど、本当にびっくりしました。
 聖火ランナーサイトのようなものがFacebookにあったんですけど、私には周りに同じように聖火リレーを走る知り合いはいなかったし、何もわからなかったから、何かを知りたくてそのサイトに登録したんです。そしたら「靴は白推奨」とか、いろいろなことわかってきた反面、ほかのランナーたちは聖火リレーに向けて走っていたり、何かしら準備を進めていることを知って、気持ち焦って、気が重くなって、不安になった時期もありました。私が選ばれて本当によかったのかなって、なんで選ばれてしまったんだろ

うって思ったりもしました。
 「そんな中、オリンピックの延期が決まり、聖火リレーも延期になりましたが、どんな気持ちでしたか？」
 コロナが増えてきて、もしかしたらオリンピックが中止か延期になるかもしれないとは薄々感じていました。そんなとき思っただけ、下北に聖火リレーが来なくなるのは、下北の人たちにとって本当に残念なことだよなということでした。下北にこういう国際的なイベントが来ることってなかなかないし、地元の子どもたちがそういうのを見る機会がなくなってしまうのは、本当に残念だなんて。聖火リレーじゃなくてもいいから、何かやってほしいなと思っていました。
 「延期が決まってから実際に走るまでの間、どんな思いで過ごしていましたか？」
 最初に連絡のあった日からちょうど1年経った頃、また組織委員会から連絡があったんです。「もしまだそのまま走っていただけるのであれば、聖火ランナーをお願いします」と。そのときはまだ日時も何も詳しいことは決まっていなかったんで、ランナーサイトでも「どうなるんだろう」と話題になっていました。3月に福島を出発すると決まったときには、とうとうやるんだなと思っただけ、うれしい気持ち半分、不安な気持ち半分でした。
 いよいよ出走の2週間前、私がむつ市のアンカーを走ると連絡が来たそのすぐあとで、今度はむつ市での聖火リレーの中止が決まったんですよね。
 「1年越しの聖火リレーに向けて、気持ちも準備も進めていたところで中